



西村友宏 Tomohiro Nishimura

株式会社インターネットイニシアティブ 九州支社 中四国支店 営業部
(2000年3月 理学部卒業)

—仕事内容は?

当社は、企業や個人向けのインターネット接続サービスから、大規模なネットワークシステムの構築、そのシステムを運用するアウトソーシングに至るまで、ネットワークを利用するための環境やサービスを提供しています。

私は、営業職として、さまざまなサービスをお客さまに紹介し、提案する仕事を担当しています。実は、この会社に入ってまだ1年ほどなんです。いまだに「営業らしくない」と言われるので、まずは「営業らしく」になりたいです(笑)。



—転職したきっかけと今の仕事のやりがいとは?

以前の会社では、8年間ネットワークエンジニアをしていました。当時は、与えられた仕事をこなすだけだったので、いつか、お客さまに自ら提案する仕事をしたいと思っていました。実は、当社は、日本で最初にインターネット接続事業を始めた会社なんです。ネットワークエンジニアとしての経験を生かせるし、面白そうだなと思い、転職を決めました。

営業は、お客さまと会わないことには、話が進みません。日中は、なるべく会社などを訪問して、サービスの紹介や提案などの営業活動をしています。新規に開拓したい会社があれば、積極的にアポイントメントを取るの、自分の枠というか、人間関係の広がりを実感できます。1年目は、IIJの営業担当としての僕を知らないお客さまばかりなので、

—技術職から営業職へ。大切なのは、今、何をすべきか。

関係づくりをした期間でした。大変ですが、ずっとやりたいと思っていた仕事だし、お客さまにとってベストと思えるものを提案できることに、やりがいを感じます。

—営業は大変では?

営業職は、数字がシビアに求められるので、プレッシャーはあります。ただエンジニアのころは、何が評価されているのか分からず、これでいいのかなと漠然とした思いを抱きながらやっていたので、評価がはっきりと数字に表れるのは、逆にがんばりがいがあります。

またニーズに合わなければ、話を聞いていただけないので、一方的に話すのではなく、レスポンスを拾いながらニーズをつかんでいくことが大事ですね。お客さまが最終的に何を求めているのかを意識して話すように心掛けています。

—今、大切にしていることと学生へのメッセージを!

自分が将来どうありたいか意識し、そうなるために何をすればいいのかを常に考えています。それから、全国規模で展開している会社なので、今勤務している中四国支店を大きくしていきたいですね。

学生時代は、若さと時間があることが一番の財産です。なんでもいいので、没頭した経験を持つことが大切です。私は、学生時代、体育会の合気道部に入り夢中で練習していました。仕事は社会人になってからいくらでも覚えられるので、その時しかできないことを大切にしてください。



社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきこと、はたまたプライベートの話まで、私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤 O&O 紹介



—仕事内容は?

この研究所では「患者さんの治療に役立つ研究」を行っていて、私は、がんの一種である悪性中皮腫を研究しています。アスベスト(石綿)は知っていますか? 昔、建築資材としてよく使われた天然の鉱石で、その粉じんが肺に入ると、20~30年後に悪性中皮腫を発症し、死に至ることがあります。胸膜腔内にたまった胸水から、がん細胞を増殖させて、どう治療が効果的かを調べています。



—大変なことは?

悪性中皮腫は、発症頻度が低く、アスベストが社会問題になってから注目されたこともあり、研究が遅れています。研究は楽ではありません。直接観察できない分子レベルの生命現象が相手ですし、ゴールの見えない研究に、「本当に患者さんのためになっているのか」と思うこともあります。治療に役立つなら、私の研究から別の研究者がアイデアを得て、治療法を発見しても構わないと思っています。

—学生時代にやっておけば良かったと思うことは?

やっておけば良かったと思うことは、特にありませんね。社会で経験を重ねるごとに、自分に求められるものは変わってくるので、その都度反省し、変えていくことができます。学

生時代は、いろいろな人と話してネットワークをつくり、自分に足りないところやだめなところを知っておけば、後で役立つと思います。

—今の目標は?

「これが目標」というものはなくて、今は、目の前の研究をやるのみです。仕事のモチベーションなんて、何でもいいんですよ。人生は十人十色。他人の人生なんて、あまり参考ににならないと思いませんか? どんな成功や失敗も、経験した本人にしか本当の気持ちは分からないでしょう。自分で失敗しながら、学んでいけばいいんじゃないかな。

—学生にメッセージを!

怒られることを怖がっちゃ駄目です。最近は、慣れていない人が多いですよ。どんな技術も、手に入れたければ怒られないと! 怒られたり注意されたりするうちは、自分に伸びしろがあるんだって思いました。



自分の人生を歩んでいくことが大事なので、みんな前に進めばいいんじゃないかな。私も、研究者として、まだ後ろを振り返りたくありません。自分はまだ成長できると思いながら、日々研究に取り組んでいます。

藤井万紀子 Makiko Fujii

愛知県がんセンター研究所 分子腫瘍学部 主任研究員
(1992年3月 歯学部卒業)

—モチベーションなんて、何でもいい。とにかく前に進むこと。



取材を終えて



転職された経験がある西村さん。今の仕事に懸ける熱い思いが、ひしひしと伝わってきました。来春就職控え、さまざまな期待や不安を抱いている私にとって、今回のインタビューは非常に有益なものになりました。私も、西村さんのように自分の仕事に誇りを持ち、生き生きと働くことができる社会人になりたいです。

取材・記事 / 法学部4年 白木 知裕



生き生きとして、キラキラとしたオーラを持つ藤井さんは、とても魅力的な方でした。夢に向かって研究し続けるひた向きさと、過去よりも今をしっかりと生きる姿勢に触れ、自分のモチベーションも上がりました。私も将来、藤井さんのような、夢にストイックで、影響力のある研究者になりたいと思いました。

取材・記事 / 総合科学部2年 林 亜里香